

ハイデルベルク信仰問答より

問 92 神の律法とは、どのようなものですか。

答え 神は、これらすべての言葉を、語って言われました。

第一戒 私は、あなたをエジプトの地、奴隷の家から導き出した、主なるあなたがたの神である。あなたは、私の前で、他の神々を拝んではならない。

第二戒 あなたは刻んだ像を作ってはならない。上は天にあるもの、下は地にあるもの、地の下の水の中にあるすべてのものの、いかなる形をもつくってはならない。あなたはそれらにひれ伏し、それらに仕えてはならない。それは、主なるあなたがたの神である私が、ねたみ深い神であるからである。私を憎む者については、父の罪を子に報いて三、四代まで罰するが、私を愛し、私の戒めを守る者については、千代までも不動の愛を示すであらう。

第三戒 あなたは、主なるあなたの神の御名を、無意味に唱えてはならない。なぜなら、主は無意味に御名を唱える者を、罰しないではおかないからである。

第四戒 安息日をおぼえ、それを聖く守りなさい。六日間働き、すべての業を行ないなさい。しかし、七日目は、主なるあなたの神のための安息日である。その日には、あなたはどのような業も行なってはならない。あなたおよびあなたの息子、娘、僕、^{はしため}婢、家畜、あなたの門の内にいる寄寓者も同様である。それは、六日間で主は天と地と海およびその中にいるすべてのものをつくられ、七日目に休まれたからである。それゆえ、主は安息日を祝福し、これを聖とされた。

第五戒 あなたの父と母を敬いなさい。それは、あなたの一生を主なるあなたの神が下さる地で、生き長らえるためである。

第六戒 あなたは殺してはならない。

第七戒 あなたは姦淫をしてはならない。

第八戒 あなたは盗んではならない。

第九戒 あなたは隣人について、偽りの証をしてはいけない。

第十戒 あなたは隣人の家をむさぼってはならない。あなたは隣人の家、僕、婢、牛、ろば、またあなたの隣人のものは、すべてむさぼってはいけない。

今日から十戒の学びに入ります。問 91 で「よい業とは何ですか」と問われたのに対し、「神の律法にかない、神の栄光のために、真の信仰からなされる業だけあります」という答えができました。更に突っ込んで「神の律法とは、どのようなものですか」と質問しているのです。ここでは律法の要約として十戒が取り上げられました。

日本語では「十戒」と言いますが、出エジプト 20:1 では「それから神は、これらすべての言葉 (אֲמָרֹת) を告げられた」となっていて、むしろ「十のことば」と言ったほうが適切です。原文も、「～してはならない」という禁止命令というよりは、強い断定のニュアンス（あなたは～するはずがない）になっています。「主なる神様に愛されエジプトでの奴隷生活から解放された人々は、ヤハウエ以外の神々を愛するはずがない」と言われていることになります。第二戒以下も同じ論調です。

次回の学びを先取りする形になりますが、十戒の内容は以下のように分類されます。

第 1～4 戒：神に対する人間の義務と責任

第 5～10 戒：人間の人間に対する義務と責任

これらは「道徳律」と呼ばれ、人間が神と人に対して行なうべき最高水準の道徳をまとめ上げたものと言えるでしょう。神の聖なる基準、人が神に受け入れられる生き方が教えられています。神を愛し神の道を歩もうとする者の「道しるべ」であり、この道を進んでいけば人は幸せであることができます。逆を言えば、道ならぬことをするとき人は不幸になっていくのです。律法は人に「不義」を示し、道を踏み外したときに気づきを与える役割も果たします。道に迷ったときに帰っていくべき場所であり、人の生き方そのものを問い直すものです。

イスラエルの民は奴隷状態から救われ、ヤハウエの民としての聖なる生き方が示されました。そのときになぜこの基準が必要だったかと言うと、神の基準から著しく足を踏み外したカナン人の生き方に倣うところから向きを変えて出発しなくてはならなかったからです。私たちも知らずして神が憎まれることを語り行なってきたのではないのでしょうか。そのような道から贖われ、神が喜ばれる人生を歩み出しました。だからこそ、この「十のことば」を学んでいくのです。